

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年3月13日

【四半期会計期間】 第16期第3四半期(自 平成26年11月1日 至 平成27年1月31日)

【会社名】 東和フードサービス株式会社

【英訳名】 TOWA FOOD SERVICE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岸野 禎 則

【本店の所在の場所】 東京都港区新橋三丁目20番1号

【電話番号】 03-5843-7666

【事務連絡者氏名】 経理財務グループ次長 石塚 実

【最寄りの連絡場所】 東京都港区新橋三丁目20番1号

【電話番号】 03-5843-7666

【事務連絡者氏名】 経理財務グループ次長 石塚 実

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第15期 第3四半期累計期間 | 第16期 第3四半期累計期間 | 第15期 |
|------------------------------|------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日 | 自 平成26年5月1日 至 平成27年1月31日 | 自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日 |
| 売上高 | (千円) | 7,608,437 | 7,714,962 | 10,066,212 |
| 経常利益 | (千円) | 449,006 | 406,288 | 531,411 |
| 四半期(当期)純利益 | (千円) | 245,486 | 207,977 | 262,507 |
| 持分法を適用した場合の 投資利益 | (千円) | | | |
| 資本金 | (千円) | 673,341 | 673,341 | 673,341 |
| 発行済株式総数 | (株) | 2,046,600 | 2,046,600 | 2,046,600 |
| 純資産額 | (千円) | 4,196,424 | 4,369,886 | 4,213,160 |
| 総資産額 | (千円) | 7,110,360 | 6,884,338 | 7,253,021 |
| 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 | (円) | 120.45 | 102.05 | 128.80 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 | (円) | | | |
| 1株当たり配当額 | (円) | 10.00 | 10.00 | 25.00 |
| 自己資本比率 | (%) | 59.0 | 63.5 | 58.1 |

| 回次 | | 第15期 第3四半期会計期間 | 第16期 第3四半期会計期間 |
|---------------|-----|------------------------------|------------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成25年11月1日 至 平成26年1月31日 | 自 平成26年11月1日 至 平成27年1月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 | (円) | 57.50 | 56.79 |

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期累計期間における外食業界は、個人消費に回復傾向が見られるものの、消費税増税、円安進行による原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇、夏場の台風等の天候不順の影響により、引き続き厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社は「味覚とサービスを通して都会生活に安全で楽しい食の場を提供する」という経営理念のもと、「客数回復、ファンづくり、質の経営」を最重要課題として、コンセプトの「あったら楽しい」店づくり、「手の届く贅沢」の提供を具現化するため、メニュー改訂を中心とした既存店のブラッシュアップや、ロールプレイング中心の集合研修実施等による接客サービスの向上に、積極的に取り組んでまいりました。

目立つ黄色のベンチコートを着用して店顔（店頭）でのお声掛けや、料理提供時のお声掛け、会計時の綺麗な硬貨やお札の釣銭等、お客様の入店から帰店のプロセスの中での様々な取り組みは、確実に成果を上げてきております。経費削減面では、配送費や販促物等を根本的に見直し、収益力向上に繋げております。また、人事面では、女性管理職を積極的に登用するなど、人材の選抜・抜擢にも力を注いでまいりました。ISO22000（食品安全マネジメントシステム）認証取得に関しましては、引き続き全社一丸となって取り組んでおります。

新規出店・業態変更では、平成26年12月に、スーパーブランド街と呼ぶに相応しい銀座2丁目の中央通りに、「椿屋珈琲店 新座新館」を新規出店、銀座の街並みに合った重厚感のある内装・雰囲気は大変ご好評をいただいております。また、11月には、改装のため休業していた「ダッキーダック相模大野ステーションスクエア店」及び「ダッキーダックキッチン聖蹟桜ヶ丘店」をリニューアルオープン致しました。食事メニューを強化した両店は、レストラン街に見合ったモデルチェンジに成功、オープン以降、対前年比130%強の売上を続けております。更に11月には「銀座椿屋珈琲横浜ポルタ店」を期間限定オープン、「椿屋カフェコレットマーレみなとみらい店」を新規出店致しました。

以上の結果、第3四半期累計期間の売上高は、77億14百万円（前年同期比1.4%増）、営業利益は4億1百万円（同11.0%減）、経常利益は4億6百万円（同9.5%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第3四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べて3億44百万円減少し、19億91百万円となりました。これは、現金及び預金が4億9百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて24百万円減少し、48億93百万円となりました。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて3億68百万円減少し、68億84百万円となりました。

(負債の部)

当第3四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べて4億91百万円減少し、13億円となりました。これは、一年内返済予定の長期借入金が3億47百万円、未払法人税等が1億53百万円、それぞれ減少したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて33百万円減少し、12億14百万円となりました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて5億25百万円減少し、25億14百万円となりました。

(純資産の部)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べて1億56百万円増加し、43億69百万円となりました。これは、利益剰余金が1億57百万円増加したことなどによります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 6,432,000 |
| 計 | 6,432,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年1月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成27年3月13日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|-----------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 2,046,600 | 2,046,600 | 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード) | 単元株式数は100株 であります。 |
| 計 | 2,046,600 | 2,046,600 | | |

(注) 発行済株式は完全議決権株式であり、株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|----------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 平成26年11月1日 ~ 平成27年1月31日 | | 2,046,600 | | 673,341 | | 683,009 |

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年10月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年10月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|---------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 8,600 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式2,037,400 | 20,374 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 600 | | |
| 発行済株式総数 | 2,046,600 | | |
| 総株主の議決権 | | 20,374 | |

【自己株式等】

平成26年10月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|-----------------------------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 東和フー ドサービス 株式会社 | 東京都港区新橋三丁目20 番1号 | 8,600 | | 8,600 | 0.4 |
| 計 | | 8,600 | | 8,600 | 0.4 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成26年11月1日から平成27年1月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成26年5月1日から平成27年1月31日まで)に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成26年4月30日) | 当第3四半期会計期間 (平成27年1月31日) |
|-----------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,789,996 | 1,380,559 |
| 売掛金 | 70,141 | 77,997 |
| S C 預け金 | 208,659 | 283,128 |
| 商品及び製品 | 29,083 | 34,876 |
| 原材料及び貯蔵品 | 69,006 | 72,591 |
| 前払費用 | 107,704 | 83,103 |
| 繰延税金資産 | 39,924 | 39,924 |
| その他 | 21,319 | 19,602 |
| 貸倒引当金 | 451 | 459 |
| 流動資産合計 | 2,335,383 | 1,991,324 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物（純額） | 1,051,903 | 1,078,807 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 163,858 | 185,789 |
| 土地 | 1,118,599 | 1,118,599 |
| リース資産（純額） | 380,367 | 359,376 |
| その他（純額） | 6,144 | 4,542 |
| 有形固定資産合計 | 2,720,873 | 2,747,114 |
| 無形固定資産 | | |
| 投資その他の資産 | | |
| 長期前払費用 | 16,084 | 21,727 |
| 繰延税金資産 | 142,955 | 143,058 |
| 差入保証金 | 501,154 | 494,702 |
| 敷金 | 1,497,305 | 1,446,610 |
| その他 | 26,261 | 26,900 |
| 貸倒引当金 | 1 | 0 |
| 投資その他の資産合計 | 2,183,759 | 2,132,998 |
| 固定資産合計 | 4,917,637 | 4,893,013 |
| 資産合計 | 7,253,021 | 6,884,338 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成26年4月30日) | 当第3四半期会計期間 (平成27年1月31日) |
|---------------|-----------------------|----------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 236,339 | 241,641 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 503,192 | 156,085 |
| 1年内償還予定の社債 | 90,000 | 90,000 |
| リース債務 | 153,350 | 148,631 |
| 未払金 | 349,102 | 291,288 |
| 未払賞与 | 107,528 | 48,990 |
| 未払費用 | 69,481 | 107,179 |
| 未払法人税等 | 199,410 | 45,531 |
| 未払消費税等 | 65,861 | 130,629 |
| 預り金 | 9,609 | 38,276 |
| 店舗閉鎖損失引当金 | 1,163 | - |
| 資産除去債務 | 4,600 | - |
| リース資産減損勘定 | 60 | 34 |
| その他 | 2,045 | 2,045 |
| 流動負債合計 | 1,791,746 | 1,300,333 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 370,000 | 310,000 |
| 長期借入金 | 231,742 | 271,455 |
| リース債務 | 260,382 | 242,368 |
| 退職給付引当金 | 269,693 | 273,061 |
| 資産除去債務 | 95,312 | 96,248 |
| その他 | 20,984 | 20,984 |
| 固定負債合計 | 1,248,114 | 1,214,118 |
| 負債合計 | 3,039,860 | 2,514,452 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 673,341 | 673,341 |
| 資本剰余金 | 683,009 | 683,009 |
| 利益剰余金 | 2,871,587 | 3,028,616 |
| 自己株式 | 19,098 | 19,215 |
| 株主資本合計 | 4,208,839 | 4,365,750 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 4,320 | 4,135 |
| 評価・換算差額等合計 | 4,320 | 4,135 |
| 純資産合計 | 4,213,160 | 4,369,886 |
| 負債純資産合計 | 7,253,021 | 6,884,338 |

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日) | 当第3四半期累計期間 (自平成26年5月1日 至平成27年1月31日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 7,608,437 | 7,714,962 |
| 売上原価 | 2,057,916 | 2,074,618 |
| 売上総利益 | 5,550,520 | 5,640,344 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,099,627 | 5,239,134 |
| 営業利益 | 450,893 | 401,210 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 174 | 170 |
| 受取配当金 | 511 | 493 |
| 受取家賃 | 17,776 | 19,316 |
| 広告料収入 | 5,166 | - |
| その他 | 2,498 | 4,661 |
| 営業外収益合計 | 26,127 | 24,642 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 23,168 | 14,969 |
| 不動産賃貸原価 | 1,400 | 1,306 |
| その他 | 3,444 | 3,288 |
| 営業外費用合計 | 28,014 | 19,563 |
| 経常利益 | 449,006 | 406,288 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 16,977 | 31,274 |
| 減損損失 | 5,746 | 18,024 |
| 店舗閉鎖損失引当金繰入額 | 127 | - |
| 特別損失合計 | 22,852 | 49,298 |
| 税引前四半期純利益 | 426,154 | 356,989 |
| 法人税等 | 180,668 | 149,011 |
| 四半期純利益 | 245,486 | 207,977 |

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

| | 当第3四半期累計期間 (自 平成26年5月1日 至 平成27年1月31日) |
|---------|---|
| 税金費用の計算 | 税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 |

(四半期貸借対照表関係)

ショッピングセンター及び駅ビル等に対する預け金等(ショッピングセンター及び駅ビル等にテナントとして出店している店舗の売上金額から相殺すべき賃借料、水道光熱費及び諸経費を差し引いた金額)であります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産等に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

| | 当第3四半期累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日) | 当第3四半期累計期間 (自 平成26年5月1日 至 平成27年1月31日) |
|-------|---|---|
| 減価償却費 | 347,685千円 | 402,125千円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|---------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|-------------|-------|
| 平成25年5月30日 取締役会 | 普通株式 | 30,570 | 15.00 | 平成25年4月30日 | 平成25年7月5日 | 利益剰余金 |
| 平成25年11月29日 取締役会 | 普通株式 | 20,380 | 10.00 | 平成25年10月31日 | 平成25年12月20日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成27年1月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|---------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|-------------|-------|
| 平成26年5月30日 取締役会 | 普通株式 | 30,570 | 15.00 | 平成26年4月30日 | 平成26年7月4日 | 利益剰余金 |
| 平成26年11月28日 取締役会 | 普通株式 | 20,380 | 10.00 | 平成26年10月31日 | 平成26年12月19日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)

当社は、フードサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成27年1月31日)

当社は、フードサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日) | 当第3四半期累計期間 (自平成26年5月1日 至平成27年1月31日) |
|---------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 120円45銭 | 102円05銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(千円) | 245,486 | 207,977 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(千円) | 245,486 | 207,977 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 2,038,025 | 2,037,985 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第16期（平成26年5月1日から平成27年4月30日まで）中間配当については、平成26年11月28日開催の取締役会において、平成26年10月31日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

| | |
|-----------------------|-------------|
| （1）配当金の総額 | 20,380千円 |
| （2）1株当たりの金額 | 10.00円 |
| （3）支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成26年12月19日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年3月13日

東和フードサービス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

| | | | | | | |
|--------------------|-------|---|---|---|---|---|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 山 | 崎 | 博 | 行 | 印 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 甘 | 楽 | 真 | 明 | 印 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東和フードサービス株式会社の平成26年5月1日から平成27年4月30日までの第16期事業年度の第3四半期会計期間(平成26年11月1日から平成27年1月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成26年5月1日から平成27年1月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、東和フードサービス株式会社の平成27年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。